

教育研究業績書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名 田中 洋一

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. e ポートフォリオを利用した知識創造サイクル	共著	平成 29 年 2 月	教育工学選書Ⅱ『教育分野における e ポートフォリオ』	e ポートフォリオ・リテラシースキルに基づき授業を設計した上で、SECI モデルに基づき暗黙知と形式知のサイクルを設計することにより、学習コミュニティが活性化され、知識創造サイクルが促進する事例を報告。 第 6 章「e ポートフォリオと学習コミュニティ」共著者：山川修， <u>田中洋一</u> 本人担当：6.4 (pp. 141-156)
(学術論文) 1. フィードバック誘起モデルの開発：量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和 6 年 3 月	情報処理学会研究報告 Vol. 2024-CLE-42 (掲載予定)	自己成長を促すフィードバック (FB) をいかに引き出すかに着目し、学習者がどのような準備をして FB を誘起するかについてモデル化した推計式の妥当性を検証。 共著者：可部繁三郎， <u>田中洋一</u> ，山田政寛，石毛弓，山本佐江，合田美子 本人担当：モデルの検証
2. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の実証試験結果-プロジェクト全体像把握と不安のサポート訓練-	共著	令和 6 年 1 月	JSiSE Research Report, vol. 38, no. 5, pp. 47-52.	プロジェクト型学習を行う授業で「Project 勇者」を用いた結果、プロジェクト中の不安解消に効果があったことを報告。 共著者：白澤秀剛， <u>田中洋一</u> 本人担当：アンケート調査
3. 文系大学におけるオンデマンド型データサイエンス授業の設計：ゆっくり解説を用いた動機づけ	単著	令和 5 年 12 月	情報処理学会研究報告 Vol. 2023-CLE-41, No. 2, pp. 1-4	文系短期大学におけるオンデマンド型オンライン科目「データサイエンス入門」の授業設計、特に動機づけとして用いた「ゆっくり解説」について報告。
4. 社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価-オンラインと対面との比較-	共著	令和 5 年 7 月	日本教育工学会研究報告集 2023 巻 2 号, pp. 101-104	2021 年度のリアルタイム配信授業と 2022 年度の対面授業における授業設計及び授業評価について比較する。 共著者： <u>田中洋一</u> ，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
5. 大学連携で取り組む地域協働学習における心理的安全性の効果	共著	令和 4 年 12 月	日本教育工学会研究報告集 2022 巻 4 号, pp. 251-254	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における 2021 年度授業設計及び Classroom Community Scale の変化に関して報告。 共著者： <u>田中洋一</u> ，山川修 本人担当：チームビルディング，評価

6. With コロナな短大入学前学習の設計	共著	令和4年6月	情報処理学会研究報告 Vol. 2022-CLE-37, No. 4, pp. 1-4	COVID-19 対策として実施したオンライン授業をふまえ、2021 年度から修正した、地方私立短期大学における入学前学習プログラムの設計を報告。 共著者：田中洋一，澤崎敏文 本人担当：入学前学習プログラムの設計
7. 大学連携で取組む地域の問題解決のための授業設計と評価	共著	令和4年5月	日本教育工学会研究報告集 2022 巻 1 号, pp. 117-120	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における 2021 年度授業設計及び内発的動機づけ尺度の変化に関して報告。 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：チームビルディング，評価 オンラインのキャリア教育科目において SEL を設計したところ，主体的なキャリア形成に必要な進路選択自己効力及びストレス対処力 SOC の変化について報告。 共著者：田中洋一，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
8. 変革に適応するキャリア教育の設計：SEL によるストレス対処力の変化	共著	令和4年5月	JSiSE Research Report, vol. 37, no. 1, pp. 40-43.	生活情報デザイン専攻における SDGs を学ぶマイプロジェクトの授業設計，ICT を活用した授業運営について報告。 共著者：田中洋一，前田博子，澤崎敏文，橋本洋子，内山秀樹 本人担当：授業設計
9. SDGs を学ぶマイプロジェクトの授業設計	共著	令和4年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第 54 号	Society5.0 に対応する人材を育成するためには Social and Emotional Learning が重要と仮説を立て，遠隔で実施したキャリア教育科目における SEL の設計及び進路選択自己効力に関して報告。 共著者：田中洋一，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
10. 変革に適応するキャリア教育の設計	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 7, pp. 19-22	自己成長を促すうえで必要な良質なフィードバック (FB) をいかに引き出すことができるかに着目し，学習者がどのような準備をして FB を誘起するかのモデルを開発。 共著者：可部繁三郎，田中洋一，山田政寛，石毛弓，山本佐江，合田美子 本人担当：変数の心理尺度 FAA 科目「ファシリテーション基礎」におけるプロセス・エデュケーションの設計と実践結果を報告。 共著者：田中洋一，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
11. フィードバック誘起モデルの開発：量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 7, pp. 23-28	生涯教育に繋げるための，幼児教育における e ポートフォリオの設計について報告。 共著者：田中洋一，中尾繁史，増田翼，森本康彦 本人担当：全体統括
12. 大学連携授業におけるプロセス・エデュケーションの設計：フィードバックの心理的安全性への影響	共著	令和4年1月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 5, pp. 24-27	COVID-19 対策としてフル・オンライン化した授業のために，FD 研修会，公開授業，授業評価アンケート等，リデザインした FD 活動を報告。 共著者：田中洋一，内田雄，増田翼 本人担当：FD 活動の統括
13. 幼児教育における e ポートフォリオの設計	共著	令和3年7月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 2, pp. 58-60	
14. オンライン授業のための FD 活動のリデザイン	共著	令和3年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第 53 号	

15. リアルタイム配信 (同期型) オンライン 授業の設計と実践	単著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 104-107	2020年後期に担当した幼稚園免許必 修科目「教育の方法と技術」におい て、どのようにリアルタイム配信(同 期型) オンライン授業を設計し実践 したのかを報告.
16. 2年制保育者養成校 のディプロマ・ポリシ ー(学習成果)につい ての検討-本学幼児教 育学科のディプロマ・ ポリシー(学習成果) を中心に-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 6-14	全国養成校におけるDPの現状調査、 本学DPの Semester毎の分布を分析 した結果を報告。 共著者:松川恵子, 香月拓, <u>田中洋一</u> , 内田雄 本人担当: データの前処理方法, グラ フ化等
17. 2年制保育者養成校 のアドミッション・ポ リシーについての検討 -高校の学びから養成 校の学びへ-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 22-30	全国養成校におけるAPの現状調査、 本学学生を対象とした高校と短大と の学びの接続における意識調査の結 果を報告。 共著者:香月拓, 松川恵子, <u>田中洋一</u> , 内田雄 本人担当: データの前処理方法等
18. 初年次カリキュラム の検討-高校の授業科 目との関連について-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 83-89	新カリキュラムの初年次開講科目に 関する教員対象アンケートを分析し た結果を報告。 共著者: 香月拓, 松川恵子, <u>田中洋一</u> 本人担当: 分析結果のまとめ方
19. 地方私立短期大学に おけるオンライン授業 の設計	共著	令和3年3月	情報処理学会研究報 告 Vol. 2021-CLE-33, No. 12, pp. 1-4	COVID-19の対策として, 仁愛女子短 期大学にて2020年度に取り組んで きた学習支援システムの運用事例, 遠 隔授業研修会, アンケート調査等に 関して報告する。 共著者: <u>田中洋一</u> , 野本尚美, 島田貢 明 本人担当: FD活動
20. オンラインでのキャ リア教育科目における SELの設計と進路選択 自己効力の向上	単著	令和3年3月	JSiSE Research Report vol. 35, no. 6, pp. 27-30	2020年度1年前期に実施したキャリ ア教育科目におけるSELの設計及び 進路選択自己効力の向上に関して報 告する。
21. オンライン授業にお けるキャリア教育の設 計と実践	単著	令和2年10月	日本教育工学会研究 報告集 20(3)pp. 185- 188	Social and Emotional Learningに 配慮して2020年度前期にオンライン で開講したキャリア教育科目の設計 と実践について報告。特に, 情動知能 に関する尺度について考察。
22. 初年次教育を加えた 情報リテラシー教育科 目のリデザイン: 共通 ルーブリックの活用	共著	令和2年3月	仁愛女子短期大学研 究紀要第52号, pp. 15-20	既存の情報リテラシー科目(教養科 目)に初年次教育3回分を加えて, 授 業を再設計した。特に, レポート作成 及びプレゼンテーションに関する評 価ルーブリックを作成し, 大学全体 に導入する事例について報告する。 共著者: <u>田中洋一</u> , 帆谷和浩, 諏訪い ずみ, 籠谷隆弘, 島田貢明 本人担当: 授業デザイン, ルーブリッ クの作成
23. AIチャットボットを 活用した振り返り支援 の設計	共著	令和2年3月	JSiSE Research Report vol. 34, no. 6, pp. 193-197	経験学習の振り返り(リフレクショ ン)において, AIチャットボットを 活用した問い掛け(指示プロンプト) システムの設計について報告。 共著者: <u>田中洋一</u> , 宮崎誠, 森本康彦, 山川修 本人担当: リフレクション支援の設 計

24. コアカリキュラムに則した科目「教育の方法と技術」の再設計	単著	令和元年 10 月	日本教育工学会研究報告集 19(4)pp. 113-116	平成 31 年からの新教職課程の再課程認定に合わせ、コアカリキュラムに則した教職科目「教育の方法と技術」の授業設計をリデザインした結果を報告。
25. デザイン思考を取り入れたプログラミング入門科目の設計	単著	令和元年 6 月	情報処理学会研究報告 Vol. 2019-CLE-28, No. 1, pp. 1-4	デザイン思考を取り入れたプログラミング入門科目の授業設計及び学習支援システムの活用方法について報告。
26. 大学連携で取り組む地域協働型 PBL の設計と評価	共著	令和元年 5 月	JSiSE Research Report Vol. 34, no. 1, pp. 15-18	福井県 COC+科目において地域協働型 PBL を実施している。2018 年度の授業設計とプロジェクト評価について報告。 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：プロジェクト評価
(その他) 【国際会議発表】 1. Designing and Assessing Course for Community Cooperative Learning in Fukui Academic Alliance: Development of UR Sheets (査読付)	共著	令和 6 年 1 月	The 9 th IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2024)	This paper reports on the reflection sheet “UR Sheet” that we designed to facilitate the reflections along the ALACT model. The 23 students from four universities who participated in the class in the 2021 academic year showed a significant increase of 5% on the intrinsic motivation scale’s ‘sense of competence’ and ‘desire for competence’ subscales as a result of taking this class. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：地域協働学習の評価
【科学研究費採択】				
1. SEL のためのラーニングアナリティクス	研究分担者	2021-2023	挑戦的研究（萌芽）	本研究は高等教育の学習者を対象として、教育実践環境でのウェアラブルセンサ等を用いた学習者のデータ収集・分析により学習者の非認知的能力を評価することを介して SEL（すなわち社会情動的スキルの育成）を支援する方法（SEL のためのラーニングアナリティクス）を構築することと、およびそれに立脚し自律的学習者を育成する SEL の実践のためのプログラムを提案することを目指す。 研究代表者：多川孝央（九州大学） 研究分担者：田中洋一，山川修
2. データ駆動型・ナレッジ駆動型アプローチを融合させたフィードバック誘起モデルの開発	研究分担者	2020-2023	基盤研究(B)	本研究では、自身の成長のために有用なフィードバックを誘起するために必要な要因を明らかにし、体系的にモデル化することを目的としている。研究方法は、データ駆動型アプローチとナレッジ駆動型アプローチを組み合わせる。研究範囲は、学習者とフィードバック提供者の 1 対 1 の場面、研究会のような学習者と複数のフィードバック提供者がいる 1 対多の場面とする。また、フィードバックをもらう場面だけでなく、その前後の要因も含め、動的・静的なフィードバック誘起要因を同定す

				る。本研究では、フィードバックの提供だけでなく、学習者からの働きかけにより、より質の高いフィードバックを誘起する手法を提案する。 研究代表者：合田美子(熊本大学) 研究分担者：山田政寛，石毛弓，田中洋一，山本佐江
3. 深いアクティブラーニングのための心理的安全性尺度の開発と評価	研究代表者	2019-2023	基盤研究(C)	人材開発や組織論の分野では成功するチームの構築に最も重要なものは、心理的安全性であると言われていいる。「学生が他者と関わりながら、対象世界を深く学び、これまでの知識や経験と結びつけると同時にこれからの人生につなげていけるような学習」と定義される深いアクティブラーニングを教育分野で設計するためにも心理的安全性が重要なことを明らかにしたい。心理的安全性がどの程度のレベルであるかを調べ、学習成果物の質との関連性を分析するため、本研究では日本の高等教育における心理的安全性の尺度を作成し、評価することをめざす。 研究代表者：田中洋一(仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修
4. ビッグデータ時代における異なる学習履歴データを共通の視点で分析する方法論の構築	研究分担者	2016-2019	基盤研究(B)	学習を分析することによりトップダウン的に、自律的学習者の学習モデルを提案し、いくつかの指標でその妥当性を確認した。このモデルには、内省、信頼、意味の3つの要素が含まれているが、その3つの要素の基礎には、アタッチメント理論で示されている Secure Base があるのではないかという仮説を提示している、このモデルを利用することにより、データを分析する上での共通の視点を与えることになる。 また、上記のモデルを実証的に検証するため、ウェアラブル・センサーを使って効率よくデータ収集するシステムを構築した。 研究代表者：山川修(福井県立大学) 研究分担者：田中洋一，井上仁，多川孝央，徳野淳子，安武公一，隅谷孝洋
5. 主体的な学習を習慣化するアクティブラーニング評価eポートフォリオシステムの開発	研究代表者	2016-2019	基盤研究(C)	基礎学力や学習意欲の低い学生がeポートフォリオ学習を習慣化するため、経験学習に基づくリフレクション・プロンプトモデルを設計した。また、学生がeポートフォリオに学習成果物を蓄積するサイクルを習慣化する仕組みとして、リフレクション・プロンプトモデルに従った対話が可能な振り返り支援AIチャットボットを開発した。 研究代表者：田中洋一(仁愛女子短期大学) 研究分担者：森本康彦，宮崎誠，山川修
6. 生涯学習におけるスキルアップを支援するe	研究分担	2014-2017	基盤研究(C)	生涯学習におけるスキルアップを支援するeポートフォリオシステムの

<p>ポートフォリオシステムの構築と実践</p>	<p>者</p>			<p>構築と実践を行った。海外の活用事例を参考にしつつ、日本の教育事情に応じた生涯学習支援 e ポートフォリオシステムの設計方針を明確にした。生涯学習で使用できる e ポートフォリオ構築のために、既存のサービスやツールを用いた e ポートフォリオ構築指標を作成した生涯学習におけるスキルアップ支援を実践しうるための e ポートフォリオのプロトタイプを 2 種類設計した。一つは既存のサービスを用いた e ポートフォリオである。もう一つは生涯学習におけるスキルアップに焦点化した e ポートフォリオとして、読書に焦点を当てた e ポートフォリオシステムを設計・開発した。 研究代表者：平岡齊士(熊本大学) 研究分担者：中嶋康二，田中洋一，松葉龍一，久保田真一郎，桑原千幸，鈴木克明</p>
<p>7. 真正な学習のために外部共同体を利用する学習環境のデザイン</p>	<p>研究代表者</p>	<p>2011-2013</p>	<p>基盤研究(C)</p>	<p>福井県内の高等教育機関連携プロジェクト「フレックス」で形成している学習共同体を利用し、真正な学習環境を構築する実践研究を行った。フレックスの基盤システムである、オープンソースのLMS (Moodle), e ポートフォリオ (Mahara), SNS (OpenSNP) を連携した授業や学生支援の設計を行い、学習効果を分析した。真正な評価方法である e ポートフォリオの実践事例を増加させるため、Mahara ユーザコミュニティや Mahara オープンフォーラムの運営に関わっている。 研究代表者：田中洋一(仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修，鈴木克明</p>
<p>【国内学会発表】</p> <p>1. 研究シンポジウム：自身の成長のために有用なフィードバックをどう誘起するのか</p> <p>2. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の評価：不安へのサポート経験によるストレス対処力の変化</p> <p>3. 大学連携で取り組む地域協働学習のプログラム評価</p> <p>4. 社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価ー ストレス対処力の変化ー</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>令和 6 年 3 月</p> <p>令和 6 年 3 月</p> <p>令和 5 年 9 月</p> <p>令和 5 年 8 月</p>	<p>日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集 pp. 9-10</p> <p>日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集 pp. 245-246</p> <p>日本教育工学会 2023 年秋季全国大会講演論文集 pp. 413-414</p> <p>第 48 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 91-92</p>	<p>学習におけるフィードバック (FB) の重要性を共有し、自身の成長を促す FB をどう誘起できるか、FB シーカーに何が必要かを検討。 共著者：合田美子，石毛弓，山本佐江，可部繁三郎，田中洋一 本人担当：量的アプローチの検証，進行 授業でプロジェクト型学習支援教材 Project 勇者を使用した際のストレス対処力の変化に関する報告。 共著者：田中洋一，白澤秀剛 本人担当：心理尺度の分析</p> <p>福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための 2021 年度授業のプログラム評価に関する報告。 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：プログラム評価 社会情動的スキルを身につけるキャリア科目として 2022 年度に対面で実施した授業設計及びストレス対処力の変化に関して報告。 共著者：田中洋一，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計及び評価</p>

5. 文系短期大学におけるデザイン思考科目の授業設計	単著	令和 5 年 3 月	日本教育工学会 2023 年春季全国大会講演論文集 pp. 439-440	文系短期大学においてデザイン思考を学ぶ科目「情報デザイン総論」の授業設計について報告.
6. 発表動画を活用した短期大学ゼミの授業設計	共著	令和 4 年 11 月	日本教育メディア学会 第 29 回 年次大会発表集録 pp. 186-187	短期大学のゼミである「マイプロジェクト」や「卒業研究」の発表に YouTube や LMS を活用する授業設計に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 澤崎敏文 本人担当: ゼミの授業設計
7. 習得主義にもとづく保育者研修の設計: デジタル・バッジの活用について	共著	令和 4 年 8 月	日本教育工学会 2022 年秋季全国大会講演論文集 pp. 143-144	開発したキャリア・ルーブリックに従うデジタル・バッジを活用した習得主義に基づく研修設計を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 中尾繁史, 増田翼, 天野慧 本人担当: 研修システムの設計
8. 大学連携で取り組む地域協働学習による情動知能の変化	共著	令和 4 年 8 月	第 47 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 57-58	福井県の大学が連携して取り組む地域協働学習の 2021 年度授業では, 内発的動機づけ尺度の下位尺度である有能感と有能欲求が 5% 有意で向上した. 本稿では情動知能の尺度である日本語版 WLEIS の変化を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修 本人担当: 授業評価
9. BYOD を活用した Problem Based Learning の設計	共著	令和 4 年 7 月	日本教育メディア学会研究会論集 第 53 号, pp52-55	主体的・対話的に衣・食・住・情報について深く学ぶため, シナリオを用いた PBL をどのように授業設計したか, リアルタイム配信 (同期型) 遠隔授業及び BYOD を活用した面接授業に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 前田博子 本人担当: 授業設計
10. 高校出前授業としてのマーケティング科目の設計	共著	令和 3 年 10 月	日本教育工学会 2021 年秋季全国大会講演論文集 pp. 275-276	高等学校の「総合的な探求の時間」にて, 大学教員がマーケティングの授業を行った際の Instructional Design 及び学習効果について考察. 共著者: <u>田中洋一</u> , 澤崎敏文 本人担当: 授業設計
11. オンラインでのキャリア教育科目における SEL の設計	共著	令和 3 年 9 月	第 46 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 47-48	昨年度に実施した遠隔でのキャリア教育科目を, Social and Emotional Learning の観点でリデザインした 2021 年度の授業設計を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修, 合田美子 本人担当: 授業設計
12. 幼児教育における e ポートフォリオの可能性	共著	令和 3 年 7 月	日本教育メディア学会研究会論集 第 51 号, pp27-30	e ポートフォリオを幼児教育に導入した場合, 保護者及び保育者がどのように支援して, 幼児自身がセレクトするショーケース・ポートフォリオを作成すべきかを報告. 共著者: 田中洋一, 中尾繁史, 増田翼, 森本康彦 本人担当: 全体統括
13. 保育者養成課程における同期型遠隔授業の設計: SEL の効果	共著	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会発表論文集 pp. P267-P268	幼児教育学科科目「教育の方法と技術」にマインドフルネスを取り入れた効果を情動知能尺度にて分析. 共著者: <u>田中洋一</u> , 香月拓, 木下由香, 乙部貴幸 本人担当: 授業設計, 評価
14. 2 年制保育者養成カリキュラムについての検討②-高校の学びと初年次の学びとの接続について-	共著	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会発表論文集 pp. P529-P530	幼児教育学科 1 年次科目担当教員を対象として, 高校の学びとの繋がり意識調査を実施した結果を報告. 共著者: 香月拓, <u>田中洋一</u> , 松川恵子 本人担当: 分析方法への助言
15. 保育者養成におけるオンライン授業「教育の方法と技術」の設計	単著	令和 3 年 3 月	JADA&UeLA 合同フォーラム 2020 予稿 pp. 24-27	オンライン授業「教育の方法と技術」でのグループワーク, グループ発表, 模擬保育の設計・実践について報告.
16. オンライン授業におけるプロセス・エデュケーションの設計: フ	共著	令和 3 年 3 月	日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集 pp. 317-318	オンライン授業におけるプロセス・エデュケーションの設計及び学習支援システムの活用方法を報告. ま

フィードバックの心理的安全性への影響				た、フィードバックによる心理的安全性への影響について、リフレクションシートを考察。 共著者：田中洋一，山川修，合田美子，山田政寛，石毛弓，山本佐江，可部繁三郎 本人担当：授業設計
17. デザイン思考を使ったPBLのオンライン化の試行	共著	令和3年3月	日本教育工学会 2021年春季全国大会講演論文集 pp. 67-68	デザイン思考を使った地域の問題解決型授業をオンライン化する際の工夫点及び課題について報告。 共著者：山川修，田中洋一 本人担当：評価
18. 学習者の視点でとらえたピア・フィードバックの特徴	共著	令和3年3月	日本教育工学会 2021年春季全国大会講演論文集 pp. 75-76	小学校教員志望学生の教育評価科目におけるパフォーマンス評価でのピア・フィードバックの特徴を報告。 共著者：山本佐江，合田美子，石毛弓，可部繁三郎，田中洋一，山田政寛 本人担当：評価手法のチェック
19. 2年制保育者養成校における3ポリシーの検討-アドミッション・ポリシーと高校の学びとの関連について-	共著	令和3年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会プログラム・抄録集 pp. 39	APと高校の学びとの関連について調査・分析し，その特徴や実態を報告。 共著者：香月拓，田中洋一，松川恵子 本人担当：分析手法のチェック
20. 2年制保育者養成校における3ポリシーの検討-本学における各授業の目標とディプロマポリシー（学習成果）との関連について-	共著	令和3年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会プログラム・抄録集 pp. 38	本学2019年度入学生の各授業における「到達目標」をDP（学習成果）との関連で考察。 共著者：松川恵子，田中洋一，香月拓 本人担当：分析手法のチェック
21. 遠隔授業におけるSELのためのリフレクション及びフィードバックの設計	単著	令和2年9月	日本教育工学会 2020年秋季全国大会講演論文集 pp. 129-130	遠隔授業におけるSocial and Emotional Learningを構築するためのリフレクション（経験学習サイクル）及びフィードバックの設計及び実践について報告。
22. 遠隔授業におけるSELの設計	単著	令和2年9月	第45回教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 71-72	非同期型や同期型の遠隔授業において，どのようにSELを設計・実践しているかを報告。
23. 幼児教育におけるプログラミング教育の可能性	共著	令和2年5月	日本保育学会 第73回大会	先行研究，教員免許状更新講習，幼児教育学科の授業を通して，幼児教育におけるプログラミング教育の可能性を考察。 共著者：田中洋一，香月拓，松川恵子 本人担当：授業設計
24. 保育士養成課程学生における保育専門職と養成に対する意識調査	共著	令和2年5月	日本保育学会 第73回大会	保育士及び看護師の職業イメージを短大生に対して調査・分析した結果を報告。 共著者：乙部貴幸，賞雅さや子，木下由香，田中洋一 本人担当：生活情報専攻学生の調査
25. 情動知能を高める地域協働型PBLの設計	共著	令和2年3月	第26回大学教育研究フォーラム発表論文集 pp. 196	福井県COC+科目において地域協働型PBLを実施している。自律的学習者育成モデルを用いて，本授業前後における情動知能の向上を分析した結果について報告。 共著者：山川修，田中洋一 本人担当：プログラムの評価
26. 2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 -テキストマイニングを用いたディプロマ・ポリシーの分析-	共著	令和2年3月	日本保育者養成教育学会第4回研究大会プログラム・抄録集 pp. 80	2年制保育者養成校のディプロマ・ポリシーを調査・分析した結果を報告。 共著者：松川恵子，田中洋一，香月拓 本人担当：分析手法
27. 2年制保育者養成校における3ポリシーの	共著	令和2年3月	日本保育者養成教育学会第4回研究大会	2年制保育者養成校のアドミッション・ポリシーを調査・分析した結果

検討 —テキストマイ ニングを用いたアドミ ッション・ポリシーの 分析—			プログラム・抄録集 pp. 81	を報告。 共著者：香月拓， <u>田中洋一</u> ，松川恵 子 本人担当：分析手法
28. 簡易版ティーチング ポートフォリオ作成ワ ークショップの設計	共著	令和2年2月	日本教育工学会 2020 年春季全国大会プロ グラム集 pp. 21-22	学内FD研修会(90分)2回分と事 前事後学習を組み合わせた簡易版テ ィーチングポートフォリオ作成ワー クショップの設計について報告。 共著者： <u>田中洋一</u> ，山川修 本人担当：ワークショップ設計・実 施
29. 質問ワークは心理的 安全性を向上させるの か	共著	令和元年9月	第44回教育システム 情報学会全国大会講 演論文集，pp. 83-84	福井県COC+科目において地域協働型 PBLを実施している。2018年度の授 業設計と評価にもとづき，質問ワー クの活用と心理的安全性との関係に ついて報告する。 共著者： <u>田中洋一</u> ，山川修 本人担当：プログラムの評価
30. 内発的動機づけを高 める地域協働型 PBL の 設計	共著	令和元年9月	日本教育工学会 2019 年度秋季全国大会講 演論文集 pp. 447-448	福井県COC+科目において地域協働型 PBLを実施している。2018年度の授 業設計及び内発的動機づけの向上に ついて報告。 共著者： <u>田中洋一</u> ，山川修 本人担当：プログラムの評価